

「IPv6 を使った立体駐車場管理」

現在の立体駐車場の問題点

現在の立体駐車場ではとても混雑した際、どこに車を駐車する駐車スペースがあるか探す為に、運転手がキョロキョロしながら運転をしています。それほどスピードをだしてないとしてもこの行為はとても危険です。人身事故が起こってしまう可能性がとても高い場所です。

問題を解決するには

立体駐車場で運転手がキョロキョロせずに駐車スペースを見つけることができれば事故を減らすことができる。そこで今回駐車スペースの一つ一つのえんせきに IPv6 を使いセンサーを取り付けることを考えました。そして運転手は駐車場の入り口でそのあいている駐車スペースを確認してキョロキョロせずにその場所にたどり着くことができると考えています。

IPv6 の利用方法

駐車スペースの一つ一つのえんせきに IPv6 を使いセンサーを取り付ける

まず一つ一つのえんせきにセンサーを取り付けどの階のどの場所にあいている駐車スペースがあるのかわかるようにする。

センサーによってあいている駐車スペースがどこにあるかわかる画面を駐車場入り口に設置する。

駐車場入り口にて駐車スペースを確認すればその場所まで運転に集中できることができる。

ここで一つの問題点

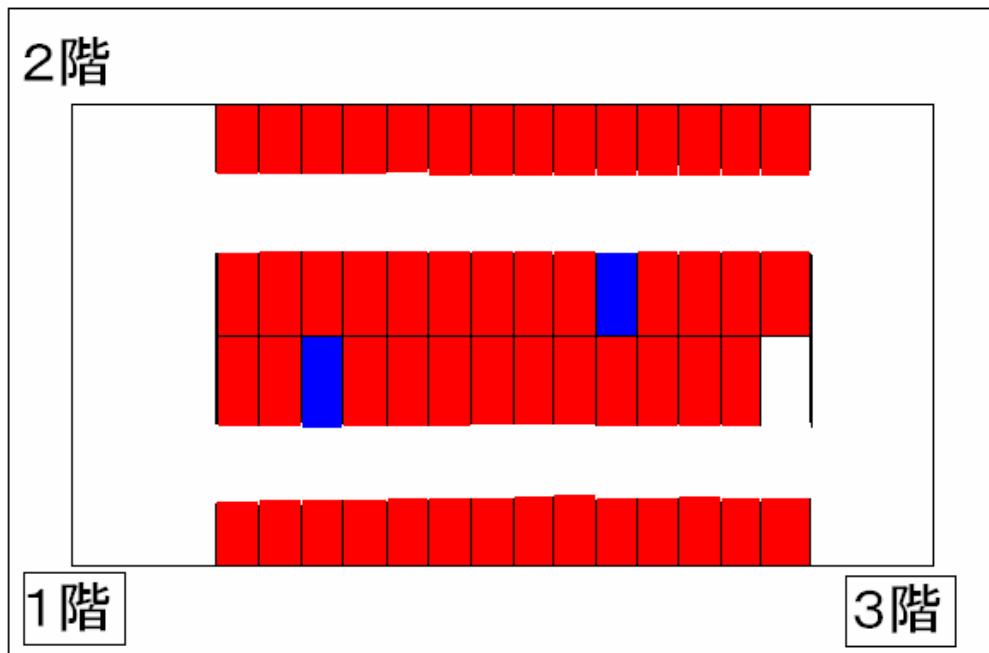
もし自分より先に来ていた車が、自分が止めようとしていた場所に駐車してしまったら。そうしたら、この環境は意味のないものになってしまいます。

この問題を解決する方法

駐車場入り口でどの場所に止めるか決めたとときにその場所に簡単な予約という形で、次に来る人達にはその場所はありません、ということを知らせる。

こうしたことにより、自分が止めようと思っていた場所に先に来ていた人が駐車をしてしまい、またキョロキョロして駐車スペースを探す必要がなくなります。

駐車場入り口画面イメージ



- 赤・・・センサーにより車があることを示す
- 青・・・今はあいているが先にきた車が止めようとしている
- 白・・・駐車スペースがあいている

画面はタッチパネルにより押せば予約もでき、3階や4階などすべての階の状況が見ることができる。

この設備ができることにより、駐車場での事故が減ることでしょう。